写真は、主婦会創立記念集会。

主婦会創立記念集会の感想

三池主婦会創立二十五周年記念集会の感想が、主婦会員の猿渡さんから寄せられました。よく実現と決意を述べていただきました。原文のまま、次に紹介します。

つまづき、倒れれば――起きあがって闘おう

三川指導部　猿渡　ハギエ

三池労組機関紙〝みいけ〟の紙上や、三池主婦会の新聞などで取り上げられた記念文集（三池主婦会発行）にもある、三池主婦会の創立二十五周年の記念集会が、大牟田労働福祉会館でありました。

集会には、主婦会の各分会からもそれぞれ代表が出席しておられました。

初代会長でありました五島さんをはじめ、主婦会の、本部・支部（今は指導部）の役職にあった諸先輩のなつかしいお顔に接してみると、自分のとしなんてすっかり忘れてしまうほどでした。

主婦会の、直接の指導者である三池労組はもちろん、政治局員や民主団体の出席もにぎやかなことでした。

私はことあるごとに「年齢が六十歳になりました」、といいますが、考えますと運動に年齢はないわけです。私は、もっと誇れる三池主婦会員にならなければと、今しみじみ思いました。感激とともに。

主婦会の皆さんや三池労組員をはじめ、全国の沢山の仲間に支えられて、運動に、諸闘争に参加することができ、交流を深めることができました。これもすなわち、現職の主婦会役員諸姉はもちろん諸先輩のご指導のおかげで、私は大いなる誇りをもち、白髪頭を打ち振りながらも、生命を守るために、誇らしを守るために、主婦会運動にぜひ参加させていただきたいと思います。そのためには、学習を大切にしなければなりません。

寒さとともに、情勢もきびしくなるでしょうが、それでもがんばり抜かねばなりません。

明日への展望を切り開くため、がんばりましょう。つまずいて倒れたら起き上がり、ホコリをはらいのけ、油断せず前進していきましょう。三池主婦会は不滅です。

お迎えした来賓の人びと

右の、猿渡ハギエさんの手記にあるように、同記念集会は盛会のうちに幕を閉じました。かけつけていただきました来賓の方々が、そのことをよく物語っているでしょう。お礼の意をこめ、次に来賓の皆さんをご紹介いたします。

三池労組代表＝森田書記長。福岡県評主婦の会代表＝若松郁代さん、古賀アイ子さん。熊本県評主婦の会代表＝山崎シズエさん、坂田洋子さん。日本婦人会議代表＝木村けいさん。大地評代表＝大橋事務局長。荒尾地評代表＝桃島事務局長。労金代表＝片島大牟田支店長。政治局＝浦川・酒井の福岡・熊本両県議、蓮尾・湯村の大牟田市議、福川・百田・民本・田代の荒尾各市議。

歴代会長＝五島頼子さん、吉田せつさん、久保時枝さん。歴代支部長＝佐伯愛子さん（元宮浦）、菊川五百子さん（元四山）、藤井エミ子さん（元宮浦）、中山初美さん（元三川）福井幸子さん（同右）、田中松枝さん（元本所）、古賀澄江さん（元港務）。元教宣部長＝永田弘さん（主婦会担当）。

元組合長夫人＝宮川まさ子さん。なお、この集会で、川口武彦元九大教授に、「三池主婦会と私」と題する記念講演をお願いいたしました。

社宅の入浴時間変更のこと

会社からの連絡によりますと、年末年始に際して、全社宅の入浴時間が次のように変更されるそうです。どうか、間違いのないようにしてください。

×

十二月三十日は定休。
同三十一日は、午後四時から午後九時まで。
昭和五十五年一月一日は休み。
同二日は、午前七時から同十一時まで。
三日は平常通り。
以上の通りです。

炭掘る仲間に思う

本所指導部　一主婦

×　×　×

季節が晩秋から初冬へと移る頃、今年もまた一一・九――悲しみの三池大爆発の日が来ました。悲しみはまるできのうの事のように、頭の中にはっきりと焼きついていてはなれません。

当日、大牟田市民会館で開催された抗議集会の中、遺族の方の抗議の言葉を聞くにつれ、改めてあの時の事が思い出され、拭いても拭いても、こぼれる涙をおさえることが出来ませんでした。さいわい今は、理解あるご主人と共に、幸福な結婚生活を過ごされているようすを聞きいくらか心がなぐさめられたのでした。

抗議集会では、また全国の仲間に達えた喜びもありました。ほんとうに、三池の労働者として、三池主婦会の一員であってよかった喜びが、心の底から湧き上がってくる思いでした。やはの団結の力で、少しでも暮らしよい社会で過ごされたら、どんなに素晴らしいことだろう、と思います。

ところで、「みんな仲間だ、炭掘る仲間」――と、あの抗議集会でこの労働歌をうたったとき、一瞬声がつまって私はうたえませんでした。あの場所で、気持をおさえることができなかったからです。

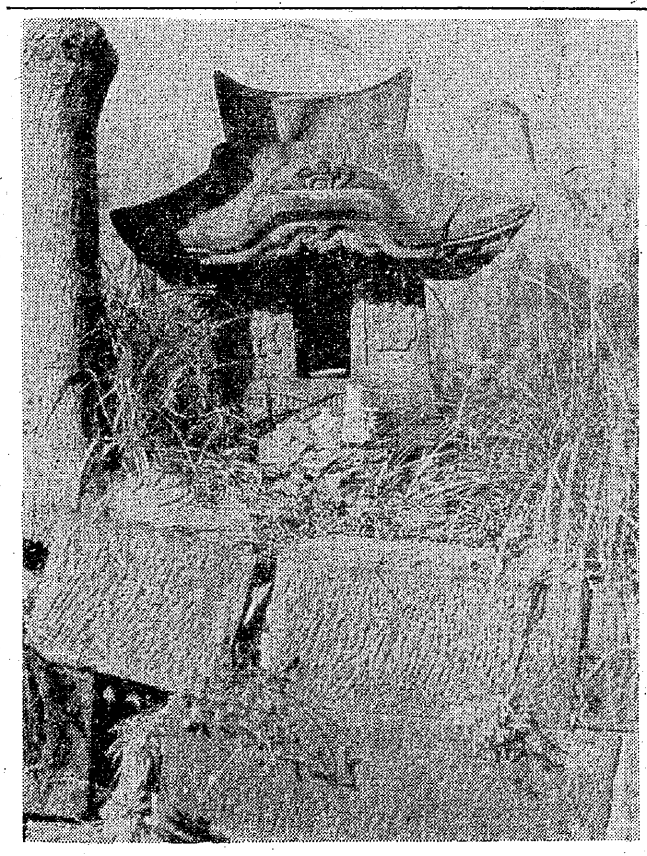
仲間の命を奪われた悲しみの中にも聞こえてくる、あの歌。喜びあればそれをみんなで分かち合い、楽しい思いでうたったあの歌。怒りをぶつけながら仲間と共に抗議したとき、どこからともなく広がってきてうたった歌。

そこにはいろんな思いが入りまじっているのです。

三池大災害抗議集会で、声つまらせながらうたった〝炭掘る仲間〟。命奪われた仲間もうたったこの歌。私はこの歌が大好きです。

×

主婦会の皆さん、この欄を、みんなで書きつづけることで守っていきましょう。下手だとか上手だとかは、ここではまったく問題はありません。仲間にぜひ聞いてもらいたいことを、打ち明けるつもりで……。



荒尾市妙見の町はずれ。小高い丘のうえ。晩秋のたたずまいのなかにひとつ、立つていた祠（ホコラ）。

子供に平和と未来を

国際児童年で、日本大会

総評や民主団体（37団体）の手で、国際児童年日本大会が十一月十九、二十の両日、東京・千代田区の日本教育会館で開かれました。

「すべての子供に平和と安全な未来を」をモットーとしたこの大会、二日間で延べ千二百人が参加しました。子供の人権を守り、健康、福祉、文化、教育、平和の前進の一歩にしよう、との願いがこめられていたのです。

今日学校災害が多発し、毎年千人以上の死亡・廃疾を出しており、また、非行少年取り締まりを口実にした青少年を統制するねらいをもつ少年法、子供向け番組のCMが多過ぎるなど、子供をとりまくさまざまな問題が報告されたといいます。

大会はそれらの悲しむべき事実をふまえたうえで、健康、福祉、文化、教育についての分科会で運動交流を行い、参加者たちは互いに真剣に学びあったといいます。

×

【連合通信】から。

牟田のおこり

大牟田の「牟田」ということばは昔よりある言葉で、その意味は「ジメジメした土地」ということです。

有明海のまわりにはたくさんの「牟田」のついた所があります。たとえば渡瀬は、ジメジメした土地の間に一部乾いた土地「渡る瀬」があったところから、今日の地名になっています。

大牟田の周辺にも、八丁牟田、西牟田、前牟田、牟田、下牟田と「牟田」のついた所が多いのです。

ついでにつけ加えれば、ジメジメした土地の大木が倒れ、地下に埋もれたのが石炭となったもので今日では、大牟田の産業を成り立たせています。

×

右は〝ST生〟として、三川指導部坑外職場の新聞〝はぐるま〟に掲載されていました。